

# 時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

## 第 104 号

平成23年 3月20日

(社) 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／馬場章信 ●発行人／石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが  
まんなか  
PROJECT

## 二十二年度を振り返って



栃幼連理事長 石嶋 昇

平成二十二年度も政治・経済・外交等、激動の時代が続きました。特に私たちに、「子ども・子育て新システム会議」における「こども園」構想には驚きを禁じ得ません。

この動きは唐突に持ち上がった発想ではなく、平成十六年に行われた「中教審」幼児教育部会と「社保審」児童部会との合同検討会議をスタートとした「幼児教育の振興と次世代育成支援改革の流

れである」と説明されています。

これまで、ワーキングチームにおける議論内容は逐一報告されているとおりですが、十一月の「すべての幼児教育施設をこども園に統一する」というイメージ案は、一連の議論とはかけ離れた発想と感ずるほど、乱暴な案と言わざるを得ませんでした。

幸い、全日私幼連派遣の委員のご努力や、幼児教育に理解ある委員の発言等で、学校教育法第一条

項から「幼稚園」が動くことはなくなつたようです。しかし、まだ大きな課題がたくさんありますので、今後の動向を注視し、適切な対応をとらなければならぬと思います。

いずれにせよ現場サイドは、どのような動きにも惑わされることなく「子どもの最善の利益」のため、これまで通り「幼稚園教育」に、全力で取り組んで参りましょう。

さて、来年度の私学助成予算案は若干の増額となっております。しかし、栃木県では昨年策定された「とちぎ未来開拓プログラム」により、増額分は県単補助分に吸収され、現状維持が精一杯の状況です。

昨年六月に開催された「OEC Dジャパンセミナー」において、イッシンガー教育局長が「日本はもっと保育や幼児教育に投資すべきである」と先行投資の重要性を述べられました。それは各種調査により、学力向上や犯罪抑止等において幼児教育の重要性が明らか

にされていることに他なりません。

これらのことを受け、国や多くの地方自治体では厳しい財政状況の中でも、幼児教育の予算拡充の方向性を出しています。

特に西の隣県では運営費補助金単価日本一の奪還を目指し、東の隣県では幼児教育予算全体の大幅増額の方針だそうです。そのような中、財政比率上位の我が県が、年々下位（昨年七位、今年十五位）に沈んでいくのは寂しい限りです。

栃木県の幼稚園教育は全国に誇れる内容であると確信しています。大切な幼児教育を担っている幼稚園の灯りを、一園たりとも消さないためにも、経営不安を招く補助金の削減を回避する努力を続けていかなければならないと思います。

栃幼連は、今後も幼児教育の質の向上を第一に、経営の安定を図るため、各種振興活動に取り組みますので、会員各位におかれましては、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 二十二年度を振り返って



文書学事課長 新井 隆

この一年を振り返りますと、国において、「子ども・子育て新システム検討会議」が設置され、幼保一体化を含む新たな次世代育成支援についての具体的検討がスタートしたことが一番に挙げられると思います。改めて、関係者が幼児教育振興の重要性や必要性について理解を深めた年であったこととします。

この会議では、すべての子どもに質の高い幼児教育と保育を提供し、子育てを社会全体で支援する新たなシステム作りのため、幼児教育・保育及び家庭における養育支援を一体的に提供する「こども園」（仮称）の創設や子育て担当部局や給付制度の一元化などについて検討が重ねられています。これらの検討状況に国民が強い関心を持ち、幼稚園が単に園児に対する教育だけでなく、地域の子育て教育センターとしての機能を有す

重要な役割を担っていることへの認識が深まってきています。幼児教育の重要性や社会全体で子育てを支援するという気運がこれまで以上に高まっていくことでしょう。

県では、来年度から始まる新しい総合計画のもと、すべての活動の原動力となる「人づくり」を政策の基本に据え、県民が豊かさを実感できる元気で活力のある栃木県を推進していきます。文書学事課においても、二十一世紀を担う子どもたちが心豊かで元気に、明るく生き生きと成長できますよう、私立幼稚園をはじめとする私学の教育の充実に引き続き取り組んで参りたいと考えております。

私立幼稚園の皆様には、地域子育ての中核として、今後とも本県の幼児教育の振興にさらなる御理解・御協力・御研鑽をお願いいたします。

## 研修会だより

### 第三回 保育セオリー講座

期日 平成二十二年十二月六日（月）

会場 コンセーレ（大ホール）

内容 「こじれる人間関係のメカニズムを知り改善する…

人生態度と心理ゲーム…」

講師 NPO法人日本交流分析協会

教授 小林 雅美 氏

参加 一五五名

**メモ** つい繰り返してしまいう不快なやり取りにはルールがある

ことを知り、不快なやり取りを止め自分を傷つけない方法を学ぶことができた。

机を取り払った広い会場では、和やかな雰囲気の中で、グループごとの活動に取り組むことができた。



### トピックス

#### こどもがまんがWEBサイト開設

『私幼時報』二月号に掲載のとおり、「こどもがまんがプロジェクト」を盛り上げるために、専用のサイトが立ち上がった。

URLは<http://www.kodomo-banannaka.jp/>。ぜひ一度開いてみて欲しい。いろいろなコーナーが用意されているが、まずはブログを閲覧あれ。この「コーナーは「こどもがまんが」に関する各園での取り組み、園長先生のつぶやきなどを自由に投稿できる場所。（投稿には私幼時報の封筒の宛名シールに記載された番号でのログインが必要。）

この運動を盛り上げるために各園から積極的に投稿しよう。



## 設置者・園長研修会 明日に向けて幼稚園の振興を考える

1月14日、ホテルニューイタヤを会場に新年恒例の設置者・園長研修会が開催された。120園で135名が参加し、今後の幼稚園振興について研鑽に励んだ。

### 理事長あいさつ

石嶋 昇 理事長

開会後の新年の挨拶の中で、昨年は幼稚園にとって厳しい状態になるのではないかと思わせる激動の年であったが、皆様のご協力により当連合会の事業を進め



ることができたことへのお礼の言葉があり、引き続き、二十二年度を振り返り、①子ども子育て新システム検討会議、②学校評価、③教員免許法の改正、④参議院議員選挙への対応、⑤子どもがまんなかプロジェクト、⑥二十三年予算案について、⑦優秀な人材の確保に向けて、⑧公益法人制度改革への対応、の8項目について現状と今後の課題について話された。



続いて、酒井精一経営研究委員長より趣旨説明があり、研修に入った。

### 研修1 「幼稚園をめぐる現状と課題」他

講師 栃木県経営管理部 文書学事課  
副主幹 村上 順一 氏



文書学事課村上 順一副主幹から、平成二十三年度予算についてのお話をお聞きした。二十三年度は、国庫分については、①一般補助は単価32円アップ（対前年比）、②特別補助はおおむね現状維持（対前年比）、③就園奨励費は3,200円増（対前年比）という内容をお聞きし、この時期としては大変心強く感じた。しかし、県単補助については、「未来開拓プログラム」に見られるように大変厳しい状況であることから、具体的な言及はなかったものの、減額についてそれなりの覚悟を促すものであった。

### 研修2 「次年度の研修内容について」

講師 幼児教育センター センター長 増田真千子 氏



平成二十三年度の幼児教育センター研修の変更点をお話しいただいた。

内容等が変更、修正される研修は次の通り。

- 幼保小の連携研修
- 地区別合同研修
- 幼・保・小教職員相互職場体験研修
- トップセミナー・パワーアップセミナー
- 特別支援教育研修
- 保育・教育課程研究協議会

### 研修3 「子ども・子育て新システムの現状と今後の行方」

講師 全日本私立幼稚園連合会 副会長  
「こどもがまんなかプロジェクト」推進委員会 議長  
学校法人福岡幼児学園紅葉幼稚園 園長  
尾上 正史 氏



この研修では、全日私幼連の副会長である尾上正史先生から、自民党時代に始まった幼保の問題が、政権交替により『子ども・子育て新システム』として議論されるにいたったことを、そこに含まれる問題を提起するという形で聞くことができた。

そこでの問題は、①財源を示していない、②“教育”が不在である、③応諾義務について、④待機児童の問題、⑤公定価格について、⑥需給調整の問題、⑦イコールフットィングの問題、などである。

とりわけワーキングチームが示した「複数案」の1案には、幼稚園教育が積み上げてきた“教育”の実績が大切にされていない、また『こども園』により保護者の選択肢が限定される、地方との関係が不明瞭であるなど、たくさん問題があるというお話であったが、尾上先生ご自身は、そのホームグラウンドで幼稚園と保育所をかなり一体化した形で運営されており、この国の教育・保育制度の在り方をしっかり見据えていらっしやると感じ、大変感銘を受けた。参加者それぞれが、自身のことを考える機会を得たようだった。



## 青年部委員会 宿泊研修会

一月三十日(日)～三十一日(月)にかけて、青年部委員会宿泊研修会が足利地区の担当にて、足利の地において開催されました。

初日の研修会では「絆を結ぶ保育を目指して」～社会から孤立しない人間をつくる～と題し、筑波大学大学院 人間総合科学研究所 教授 徳田克己先生と助手の先生一名をお招きしてご講演をいただきました。特に最近、増加傾向にある気になることもへの対応を中心に、それを取り巻く園や保育者のあるべき姿や、学ばべき事柄などを丁寧にお話しいただきました。

具体的な事例を示しながらの講演は、私たちの身近にある問題を考える上で、参考となるものであったと思います。また先生は、悩みを持つ保育者支援にも力を注がれていて、講演終了後も、一人ひとりの悩みに個別に指導をして下さり、とても心強く感じられました。

引き続きの懇親会では、足利地区青年部OBの宮入先生、大塚先生、講師の徳田先生を交え、現役メンバーとの交流を深めることができました。この席上でも、徳田先生や助手の先生方が個別の相談に対応して

いただき、メンバーが行列を作って相談をしていたことが印象的でした。

研修二日目は、日本最古の大学足利学校と、足利地区幹事の遠藤先生の花園幼稚園、青年部OB山越先生の饒阿寺を視察しました。足利学校では孔子の精神に触れ古に思いをめぐらせました。その後花園幼稚園に移動し、音楽発表会のリハーサルを見学させていただきました。こどもたちのいきいきとした中にも規律ある姿に、先生たちの保育の成果を感じるとても参考になるものでした。最後に山越先生の案内の下、饒阿寺を見学し、足利の歴史を学ぶことができました。

二日間にはわたる宿泊研修で、お世話になった関係各位に改めて感謝申し上げますと共に、今後の青年部委員会活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。報告とさせていただきます。

(青年部委員長 黒川 弘照)



## 青年部委員会 県外視察研修会

二月二十二日(火)～二十三日(水)にかけて青年部委員会県外視察研修会が福島県白河市を中心に開催されました。今回の担当は那須地区で、迎見設計事務所の協力をいただいて、社会福祉法人 川谷保育園・こども育ち応援センター、学校法人専念寺学園 認定こども園 ぼだい樹西幼稚園・こどもの園西保育園、中島村立中島幼稚園の三箇所を見学しました。

新白河駅に集合して貸し切りバスにて最初の訪問園、川谷保育園に向かいました。那須高原の雄大な自然の中に、園長先生のこどもに対する思想が込められた園舎と保育が行われている園でした。次に訪問した西幼稚園では現在建設中の西保育園の現場見学をしました。建設中ではないと見られない部分も見学できとても参考になりました。初日の日程を終えて、宿泊地である母畑温泉に向かい、設計士を交えての懇親会が開かれ、設計士の思想や幼稚園に対する考えなど多くの意見を交換することができたと思います。

研修二日目は中島幼稚園訪問。この園は公立の園でしたが、参考になったのは、園を建てる時の会議

で、行政に対しこども中心の考えを認めさせたという点です。公立園としてはユニークな施設だと思っています。

今回見学した園に共通しているものは、OMソーラーを完備し、木のぬくもりが伝わる作りで、いたるところでこどもたちの想像力や冒険心、わくわくする気持ちを引き出させるような仕組みが隠されているところでした。施設見学ももちろんですが、一人の設計士との出会いが多くの学びを与えてくれました。私たちもこどもに関わる立場の人間として、社会とどのように交わって行かなければならないのかを考えさせられました。ご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

(青年部委員長 黒川 弘照)



資質向上選抜養成講座Ⅵが修了

五日間の日程で行われた今年度の資質向上選抜養成講座が、左記の第五回をもって無事に修了しました。

期日 平成二十三年一月二十一日(土)

会場 コンセール

参加人数 三十九名

午前

演習「幼児の内面の理解と教師の援助」

講師 宇大附属幼稚園副園長

高柳 恭子氏

午後

講義①「自己の保育を有言実行する」

講義②「本質の保育テクニックとは」

講師 香竜幼稚園長 小林 研介氏



最終日の今回も、講師の高柳先生のいつものがらの熱心なお話に参加の先生方も食い入るように耳を傾けて

いました。本当に素敵な先生ですね。

特に、「保育の落とし穴」：「ダメ」といわない保育の話では、先生

方から、自分に問いかける部分がた

くさんあり、自分の保育を振り返り、

熱意を持って子どもたちとの関係を

築き、自己を高めていきたい等の意

見をいただきました。

午後的小林先生の講義では、

言葉は自分に対する理解でもあるので、説明する力をつけること

との大切さや遊

びの裏側にある経験を重ねることの

大切さを伺いました。先生方が熱心

に聞き入る様子をみて、明日からの

保育への意欲や深まりへ繋がってい

くことを確信しました。受講した先

生一人ひとりが素敵な先生！楽しい

先生！と、子どもたちから慕われる

先生でいたいですね。三十九名全員

が修了証をいただきました。

(教育研究委員会副委員長 山荷フサ子)



小園 登



特別寄稿

「つながりの中で」

とちぎテレビ 飯島 誠氏

子どもはみんな素直。だから「周りの大人」の接し方が、子どもの人生を決定づけるのだろっと思えます。我が家では上の子が幼稚園に通っています。幼稚園という初めての「コミュニティ」に加わる前に最も長く接するのは両親。私はできるだけ楽しい記憶を残してもらえようように接しました。「甘やかし」にならないか不安でしたが、長い人生：大きな壁にぶつかるとも厳しくしなければならぬときも来る。だから人生のスタートはできるだけ楽しい思い出で心を埋めてほしいと思えました。近所の人も優しい方ばかりで、親以



外の大人の「気持ち」にも接した子どもは、幸せだったなと思えます。幼稚園は子どもにとって新しい刺激になっているようです。スタッフの皆さんのご苦労は計り知れないと思えますが、幼稚園参観で何うと、先生は我々にも優しい笑顔で迎えてくれます。子どもだけではなく「みんな気持ちがつながっている」と感じ、安心します。

テレビも「つながり」が大切です。地元のテレビ局ですからいかに親近感を持っていただけるか、皆さんとつながることができると考えながら放送しています。「イブニング6」(月・金 夜六時〜)で放送中の「ツインリンクもてぎ」で放送中の「ツインリンクもてぎ」コーナー。四月からは毎週木曜日の放送です。私も先日、収録先と一緒に踊りましたが、一生懸命踊る子どもたちの小さな体から大きなパワーを感じました。テレビを通じてみんなとつながっていただけらと心から思います。

●プロフィール●

1972年小山市生まれ。1998年とちぎテレビ入社。報道部に所属し、2007年4月から「イブニング6」を担当。そのほかスポーツの実況なども担当。二児の父。



## 平成23年度私立幼稚園関係予算案 (単位：千円)

事業名	平成22年度 予算額	平成23年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	5,754,126	5,739,311	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり 178,500円(H22 178,500円) うち満3歳児分 312,375千円(H22 318,087千円)
2 幼稚園教材費等補助金	48,563	24,438	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり 39,100円(H22 39,100円) うち満3歳児分 1,643千円(H22 2,229千円)
3 地域子育て推進事業費補助金	314,290	335,350	
(1)子育てランド事業	59,930	51,410	幼稚園が実施する①～⑤の事業に対する助成 ① 子ども遊び場確保事業 ア 園地・園舎開放事業 イ 放課後児童クラブ事業 ② 未就園児親子教室事業 ③ 幼児教育に関する各種講座開催事業 ④ 地域の子育て支援に関する情報提供・紹介事業 ⑤ その他市町が定める子育て支援事業のうち、知事が適当と認めるもの A 上記事業のうち2事業以上実施 1園当たり 190千円(市町190千円以上の補助が条件) B 上記事業のうち3事業以上実施 1園当たり 300千円(市町300千円以上の補助が条件)
(2)わんぱく保育推進事業	254,360	283,940	幼稚園が実施する①～④の預かり保育事業に対する助成 ①預かり保育(通常分) 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ②特定預かり保育(4時間超) 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ③長期休業日預かり保育 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ④休業日預かり保育 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 幼稚園第二子等保育料減免事業費補助金	45,824	42,704	幼稚園に同時に二人以上在園する場合に保護者が負担する保育料に対する助成 第一子に対して、第二子は1/2に、第三子以降は1/10に軽減
5 特別支援教育費補助金	268,128	311,248	特別支援を要する園児が就園する幼稚園に対し、その経費の一部を助成 対象園児一人当たり 学法二人以上 784千円(H22 784千円) 上記以外 392千円(H22 392千円)
6 私立幼稚園教職員退職金財団補助金	153,143	151,368	掛金について、教職員標準給与額の27/1000を補助(対象者2,193人)
7 幼稚園緊急環境整備事業費補助金	126,761	0	遊具等環境整備及びデジタルテレビ等整備に対する助成、並びに認定こども園における研修支援(学校法人立) ※H22で事業終了
8 私立学校教職員共済補助金	51,561	52,029	長期掛金について、教職員標準給与額の8/1000を補助(対象者2,468人)
合 計	6,762,396	6,656,448	

### 平成23年度予算案の内容について

1、2については22年度と単価は同じですが、減額になっているのは園児数の減少と個人立幼稚園が学校法人になったためです。7の幼稚園緊急環境整備事業費補助金は、22年度で事業終了となります。

栃幼連といたしましては、引き続き全日私幼連との連携を深め、研究や運動を重ねていく所存ですが、会員の皆様方におかれましても保護者や地域の方々のご理解とご支援をいただきながら、さらなるご協力をお願い申し上げます。

振興委員長 磯 行雄

幼児教育センターだより

今年度の主な事業が終わり、また、今年度より新規にスタートした「幼稚園・保育所等パワーアップセミナー」をはじめとする各研修や調査研究等、幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。

新規採用幼稚園教諭研修が終了しました

昨年十二月二十四日に全日程が終わり、宿泊研修をはじめ様々な研修を通して、悩みを共有したり、スキルアップをしたりして、一回り大きくなったように思います。ますますの御活躍を期待しています。

指導要録の記入の時期です

修了や卒園が近付き、指導要録の記入の時期になりました。各幼稚園では、記入にむけての共通理解を図ったり、実際に記入を始めたりしていることと思います。

指導要録は、子どもの発達の記録です。また、次年度の担任あるいは小学校への指導の継続を図る貴重な資料なので、日々の記録をもとに、その子のよさや発達の過程等をわかりやすく記入することが望まれます。

幼児教育センターでは、平成二十

一年六月に「幼稚園幼児指導要録記入の手引」を作成し、配布させていただきました。ぜひ御活用ください。

また、今年度より、保育所においても「保育所児童保育要録」を作成し、小学校への送付が義務付けられました。これにより、幼稚園・保育所の双方から小学校へ要録が送付されます。

このようなことを踏まえ、昨年三月にリーフレット「学びをつなぐ幼・保・小連携」を作成しました。ここには、小学校に送付した要録が有効に活用されるための記入のポイント等が書いてありますので、ぜひお読みください。ホームページよりダウンロードすることも可能です。また、園内研修等で御利用の際は、実物を送付することもできます。センターまでお問い合わせください。

平成二十二年幼稚園教職十年経験者研修が修了しました

平成二十二年幼稚園教職十年経験者研修の修了者三十名をご紹介します。



お疲れさまでした。園のミドルリーダーとして、ご活躍ください!!



清愛幼稚園	佐藤美由紀
さくらが丘幼稚園	大塚 友美
中鶴田幼稚園	鮎田 倫子
平出幼稚園	中野 朋子
平出幼稚園	幕田 稚子
すずめ幼稚園	金子 和泉
八幡台幼稚園	町田 恵美
上河内幼稚園	矢野 麻由
にしだ幼稚園	黒川 裕幾
足利ひかり幼稚園	武井富有子
足利さくら幼稚園	石井 亜希
育成館幼稚園	渡辺 純子
犬伏幼稚園	上福元結佳
佐野みのり幼稚園	鈴木里枝子
こぼと幼稚園	新藤 妙子
おおひらふじ幼稚園	小野 淳子
大平みなみ幼稚園	菅沼由佳梨
ひまわり幼稚園	矢口久美子
楠エンゼル幼稚園	平井 稚子
愛泉幼稚園	安齋 敦子
法得幼稚園	長 亜紀子
鹿沼みどり幼稚園	大貫 みか
鹿沼みどり幼稚園	林 佳美
今市幼稚園	福田 香奈
今市中央幼稚園	渡辺佳緒里
高根沢第二幼稚園	綱川 昌恵
かしわ幼稚園	荒井 温子
那須みふじ幼稚園	嘉久和佳代
ひかり幼稚園	山崎 昭宏
マロニエ幼稚園	相馬 律子

(敬称略)

リーフレット「家庭教育のすすめ」を作成しました

子どもを取り巻く社会の変化に伴い、保護者の育児不安が大きくなってきています。また、地域等とのつながりも希薄になり、育児の孤立化も否めません。そのような中、地域の幼児期の教育のセンターとしての役割が幼稚園に期待されています。

そこで、センターでは、幼稚園と保護者が共に子どもの育ちを支えていく子育て支援の一助となるよう、願いを込めてリーフレットを作成しました。三月末に、各幼稚園に送付する予定です。新年度の入園式や保護者会等で、保護者と一緒に子育てを考えたり、園長先生からの説明を加えたりして、活用していただけたいと思います。

保育・教育アドバイザーを派遣いたします

「園内研修を充実させたいが、具体的な方法が知りたい。」  
「小学校と連携したいが、どうすればいいのかわからない。」  
「科学遊びや絵画表現などのスキルを知りたい。」  
など、様々なご要望にお応えしています。ぜひ、御活用ください。

(文責 高木 恵美)



# 学事だより

県文書学事課

## 各種提出書類について

### ●幼稚園運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十三年五月六日（金）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに平成二十二年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いいたします。

### ●幼稚園教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十三年四月二十二日（金）です。

### ●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに平成二十三年四月四日（月）です。

### ●平成二十二年決算書及び平成二十三年予算書の提出について

平成二十二年決算書及び平成二十三年予算書の提出期限は、平成二十三年六月三十日（木）です。決算書（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園あてに別途メールでお送りしています。予算書も決算書標準様式と同様に作成してください。

### ●資産総額の変更登記届

平成二十二年決算に伴う資産総額の変更登記は、平成二十三年五月末日までに行い、六月三十日（木）までに登記済届を提出してください。

各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

### 平成二十三年度学校基礎調査ヒアリング（園児数確認）の実施について

平成二十三年度学校基礎調査ヒアリング（園児数確認）について、平成二十三年五月九日（月）から十三日（金）の五日間で実施を予定しています。詳細については、別途通知しますが、担当者の出席について御協力をお願いします。

## 平成二十三年四月

### 六月までの事業予定

4月6日	新規採用幼稚園教諭研修集合研修
5月13日	柘幼連通常総会（22年度決算総会）
5月23日	※10年経験者研修（共通研修）
5月26日	新採研公開保育（宇大附属幼稚園）
5月27日	※合同研修（幼・保・小）
5月30日	※合同研修（幼・保・小）
5月31日	※合同研修（幼・保・小）
6月3日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月6日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月9日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月13日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月16日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）
6月17日	特別支援教育研修会
6月20日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月23日	設置者・園長研修会
6月24日	※保育・教育課程研究セミナー
6月28日	新採研公開保育（宇大附属幼稚園）
6月30日	※パワーアップセミナー
	※は幼児教育センター事業

### \*総会予告\*

## 柘幼連通常総会

平成二十三年五月十三日（金）  
（二十二年決算総会）  
会場：コンセーレ

## 編集後記

酷暑と騒がれたあの暑い夏とかわり、年末からの北海道や日本海側の積雪のニュースを見る度に、その地域の方のご苦労に胸を痛めるとともに、私たちの柘木県は穏やかな関東平野であることに感謝の気持ちで一杯になります。

環境の変化がこれだけに激しい子どもたちももちろんですが、われわれ大人でも体調を悪くしている人が増えているようです。日頃から体を動かしたり、早寝早起きを心掛けたりと自分の体は自分で意識して整えることが大切だと感じています。

体のことももちろんですが、心も含めて、自分のことを大切にできる人が、他の人のことも大切にできるようになり、相手のことを思っている行動できるようになるのではないかと思います。「自分なんて、いない方がいいんだ。だめなんだ」と自分を否定的に見てしまつのは、幼い頃から、親や大人などからの愛情を受けてこなかった理由からかもしれないのも、人と人との暖かいぬくもりのふれあいが減ってきているのが原因なのではないでしょうか。

自分のことを大切に思い、相手（子どもたちや保護者など）のことを思っている行動し、お互いに助け合いながら、みんなが幸せな日々を過ごせるような社会になることを切に願っています。

（広報委員 佐々木桐子）